

2号議案

2022年度（第100期）
会計報告書

（ 自 2022年3月 1日
至 2023年2月28日 ）



一般社団法人 日本機械学会

1. 2022年度（第100期）財務諸表

1・1 貸借対照表

貸借対照表

2023年2月28日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,087,267,226	1,058,917,425	28,349,801
未収金	43,402,414	41,892,635	1,509,779
前払金	31,555,989	13,323,954	18,232,035
仮払金	0	1,893,590	△ 1,893,590
製品	—	24,687,642	△ 24,687,642
出版物	26,490,784	—	26,490,784
仕掛品	21,106,120	54,364,900	△ 33,258,780
貸倒引当金	0	△ 270,000	270,000
流動資産合計	1,209,822,533	1,194,810,146	15,012,387
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産（現預金）	—	100,000,000	△ 100,000,000
定期預金	100,000,000	—	100,000,000
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	75,717,918	83,084,705	△ 7,366,787
機械工学振興事業資金	237,144,983	225,853,644	11,291,339
職員住宅厚生資金	29,301,538	29,301,538	0
研究協力引当預金	61,368,253	63,549,910	△ 2,181,657
日本機械学会賞基金	111,447,408	114,442,279	△ 2,994,871
特定資産合計	514,980,100	516,232,076	△ 1,251,976
(3) その他固定資産			
備品	—	14,130,749	△ 14,130,749
建物付属設備	12,049,420	—	12,049,420
什器備品	1,321,031	—	1,321,031
ソフトウェア	6,573,478	1,305,020	5,268,458
差入保証金	39,605,664	39,002,052	603,612
長期性預金	60,000,000	10,000,000	50,000,000
その他固定資産合計	119,549,593	64,437,821	55,111,772
固定資産合計	734,529,693	680,669,897	53,859,796
資産合計	1,944,352,226	1,875,480,043	68,872,183
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,858,465	1,003,401	855,064
前受金	287,472,251	344,429,359	△ 56,957,108
仮受金	0	2,613,111	△ 2,613,111
預り金	2,011,493	2,044,613	△ 33,120
賞与引当金	11,047,750	11,344,356	△ 296,606
その他流動負債	—	3,082,500	△ 3,082,500
未払法人税等	70,000	—	70,000
未払消費税等	8,471,000	—	8,471,000
流動負債合計	310,930,959	364,517,340	△ 53,586,381
2. 固定負債			
退職給付引当金	75,717,918	83,084,705	△ 7,366,787
固定負債合計	75,717,918	83,084,705	△ 7,366,787
負債合計	386,648,877	447,602,045	△ 60,953,168

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
機械工学振興事業資金	—	225,853,644	△ 225,853,644
日本機械学会賞基金	—	114,442,279	△ 114,442,279
寄付金	271,030,391	—	271,030,391
投資有価証券受贈額	77,562,000	—	77,562,000
指定正味財産合計	348,592,391	340,295,923	8,296,468
(うち特定資産への充当額)	(348,592,391)	(340,295,923)	(8,296,468)
2. 一般正味財産	1,209,110,958	1,087,582,075	121,528,883
(うち基本財産への充当額)	(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(90,669,791)	(92,851,448)	(△2,181,657)
正味財産合計	1,557,703,349	1,427,877,998	129,825,351
負債及び正味財産合計	1,944,352,226	1,875,480,043	68,872,183

(注) 実施事業資産に該当する資産はない。

1・2 正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

2022年3月1日から2023年2月28日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	51,165	8,468	42,697
基本財産受取利息	51,165	8,468	42,697
特定資産運用益	1,195	1,328	△ 133
特定資産受取利息	1,195	1,328	△ 133
受取入会金	772,000	776,000	△ 4,000
個人会員受取入会金	692,000	706,000	△ 14,000
法人会員受取入会金	80,000	70,000	10,000
受取会費	284,891,099	293,459,001	△ 8,567,902
個人会員受取会費	216,381,100	224,091,900	△ 7,710,800
法人会員受取会費	68,509,999	69,367,101	△ 857,102
事業収益	551,772,447	387,734,956	164,037,491
参加費収益	213,977,099	187,046,371	26,930,728
書籍等販売収益	74,612,290	110,302,255	△ 35,689,965
その他事業収益	—	90,386,330	△ 90,386,330
掲載料収益	35,818,000	—	35,818,000
展示広告料収益	40,692,282	—	40,692,282
資格試験事業収益	53,867,029	—	53,867,029
受取受託事業収益	132,805,747	—	132,805,747
受取負担金	—	49,150,952	△ 49,150,952
受取負担金	—	49,150,952	△ 49,150,952
受取補助金等	19,655,725	—	19,655,725
受取地方公共団体補助金	5,353,000	—	5,353,000
受取民間補助金	183,000	—	183,000
受取地方公共団体助成金	150,000	—	150,000
受取民間助成金	13,969,725	—	13,969,725
受取寄付金	8,076,291	7,496,982	579,309
受取寄付金	3,436,020	3,766,620	△ 330,600
受取寄付金振替額	4,640,271	3,730,362	909,909
雑収益	8,023,069	11,033,555	△ 3,010,486
受取利息	11,351	48,910	△ 37,559
貸倒引当金戻入益	270,000	10,000	260,000
雑収益	7,741,718	10,974,645	△ 3,232,927
経常収益計	873,242,991	749,661,242	123,581,749
(2) 経常費用			
事業費	632,960,316	529,580,547	103,379,769
給料手当	119,864,831	136,561,369	△ 16,696,538
賞与引当金繰入額	7,285,992	—	7,285,992
退職給付費用	14,197,206	5,738,440	8,458,766
臨時雇賃金	16,166,560	11,017,434	5,149,126
人材派遣費	6,933,490	—	6,933,490
福利厚生費	16,721,932	19,096,818	△ 2,374,886
旅費交通費	15,323,762	3,383,843	11,939,919
通信運搬費	25,558,973	26,467,442	△ 908,469
減価償却費	2,361,583	2,881,096	△ 519,513
消耗品費	57,697,814	24,074,821	33,622,993

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
印刷製本費	49,117,424	31,047,633	18,069,791
水道光熱費	2,715,073	2,715,289	△ 216
賃借料	26,892,475	32,074,597	△ 5,182,122
諸謝金	27,259,324	19,494,243	7,765,081
会議費	46,701,178	13,518,563	33,182,615
事務経費	3,593,564	3,744,616	△ 151,052
売上原価	51,839,642	64,634,932	△ 12,795,290
広報宣伝費	361,097	404,667	△ 43,570
出版物処分損	5,776,059	2,606,748	3,169,311
電算使用料	14,963,309	13,622,328	1,340,981
保険料	258,321	312,821	△ 54,500
貸倒損失	175,000	—	175,000
備品処分損	0	17,425	△ 17,425
租税公課	4,646,906	6,173,641	△ 1,526,735
支払助成金	130,000	20,000	110,000
付随行事費用	35,648,826	26,877,631	8,771,195
外注費	71,880,755	67,188,512	4,692,243
雑費	8,889,220	15,905,638	△ 7,016,418
管理費	118,683,792	125,070,299	△ 6,386,507
給料手当	41,560,938	44,526,951	△ 2,966,013
賞与引当金繰入額	2,991,729	—	2,991,729
退職給付費用	5,829,558	2,149,224	3,680,334
人材派遣費	986,402	—	986,402
福利厚生費	6,866,281	7,152,419	△ 286,138
旅費交通費	2,817,585	29,421	2,788,164
通信運搬費	2,953,838	3,065,122	△ 111,284
減価償却費	787,866	888,975	△ 101,109
消耗品費	1,329,413	12,052,321	△ 10,722,908
印刷製本費	2,790,743	3,016,350	△ 225,607
水道光熱費	905,797	837,808	67,989
賃借料	8,971,794	9,896,739	△ 924,945
諸謝金	1,749,863	304,595	1,445,268
会議費	1,895,320	59,900	1,835,420
電算使用料	3,660,040	3,171,129	488,911
保険料	75,708	59,801	15,907
備品処分損	0	5,376	△ 5,376
租税公課	20,239,014	17,994,529	2,244,485
外注費	5,828,471	5,569,717	258,754
雑費	6,443,432	14,289,922	△ 7,846,490
経常費用計	751,644,108	654,650,846	96,993,262
評価損益等調整前当期経常増減額	121,598,883	95,010,396	26,588,487
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	121,598,883	95,010,396	26,588,487
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
税引前当期一般正味財産増減額	121,598,883	95,010,396	26,588,487
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	121,528,883	94,940,396	26,588,487
一般正味財産期首残高	1,087,582,075	992,641,679	94,940,396
一般正味財産期末残高	1,209,110,958	1,087,582,075	121,528,883
II 指定正味財産増減の部			
特定資産運用益	1,537,739	1,147,187	390,552
特定資産受取利息	7,310	12,406	△ 5,096
特定資産受取配当金	1,530,429	1,134,781	395,648
受取寄付金	1,561,000	629,000	932,000
受取寄付金	1,561,000	629,000	932,000
特定資産評価損益等	9,838,000	13,199,600	△ 3,361,600
特定資産評価損益等	9,838,000	13,199,600	△ 3,361,600
一般正味財産への振替額	△ 4,640,271	△ 3,730,362	△ 909,909
当期指定正味財産増減額	8,296,468	11,245,425	△ 2,948,957
指定正味財産期首残高	340,295,923	329,050,498	11,245,425
指定正味財産期末残高	348,592,391	340,295,923	8,296,468
III 正味財産期末残高	1,557,703,349	1,427,877,998	129,825,351

(単位：円)

科 目	実施事業等会計										法人会計	内部取引等消去	合計
	実施事業	本部特別事業	本部事業	支部事業	部門事業	研究協力事業	受託事業	会誌事業	出版事業	その他会計			
税引前当期一般正味財産増減額	△ 37,120,938	△ 4,463,249	22,470,546	△ 37,516,667	△ 12,437,070	8,906,224	1,852,389	△ 39,062,738	44,854,805	174,115,581	0	121,598,883	
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	0	0	0	70,000	0	0	70,000	
当期一般正味財産増減額	△ 37,120,938	△ 4,463,249	22,470,546	△ 37,516,667	△ 12,437,070	8,906,224	1,852,389	△ 39,062,738	44,784,805	174,115,581	0	121,528,883	
一般正味財産増減額													
一般正味財産増減の部													
指定正味財産増減の部													
特定資産運用利益	1,537,739											1,537,739	
特定資産受取利息	7,310											7,310	
特定資産受取配当金	1,530,429											1,530,429	
受取寄付金	1,561,000											1,561,000	
受取寄付金	1,561,000											1,561,000	
特定資産評価損益等	9,838,000											9,838,000	
特定資産評価損益等	9,838,000											9,838,000	
一般正味財産への振替額	△ 4,640,271											△ 4,640,271	
当期指定正味財産増減額	8,296,468	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,296,468	
指定正味財産増減高												340,295,923	
指定正味財産増減高												348,592,391	
指定正味財産増減高												1,557,703,349	
III 正味財産増減高												1,557,703,349	

1・4 財務諸表に対する注記

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
期末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
出版物・仕掛品：個別法による原価法（貸借対照表上は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
- (3) 固定資産の減価償却の方法
建物付属設備・什器備品：定率法、ソフトウェア：定額法
なお、取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法によっている。
- (4) 引当金の計上基準
退職給付引当金
退職一時金については、職員の退職給付に備えるため、法人負担期末自己都合要支給額から中小企業退職者共済制度による支給額を控除した金額を計上している。
賞与引当金
職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当期に帰属する額を計上している。
貸倒引当金
期末未収金残高に対する回収不能見込額を計上していたが、当期より重要性が乏しいと判断し計上を省略している。
- (5) 消費税等の会計処理
税抜処理によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	100,000,000	0	0	100,000,000
小計	100,000,000	0	0	100,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	83,084,705	11,345,249	18,712,036	75,717,918
機械工学振興事業資金	225,853,644	12,931,610	1,640,271	237,144,983
職員住宅厚生資金	29,301,538	0	0	29,301,538
研究協力引当預金	63,549,910	61,368,253	63,549,910	61,368,253
日本機械学会賞基金	114,442,279	5,129	3,000,000	111,447,408
小計	516,232,076	85,650,241	86,902,217	514,980,100
合計	616,232,076	85,650,241	86,902,217	614,980,100

※機械工学振興事業資金の当期増加額には、特定資産評価損益等9,838,000円が含まれている。

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
定期預金	100,000,000	(0)	(100,000,000)	—
小 計	100,000,000	(0)	(100,000,000)	—
特定資産				
退職給付引当資産	75,717,918	—	—	(75,717,918)
機械工学振興事業資金	237,144,983	(237,144,983)	(0)	—
職員住宅厚生資金	29,301,538	(0)	(29,301,538)	—
研究協力引当預金	61,368,253	(0)	(61,368,253)	—
日本機械学会賞基金	111,447,408	(111,447,408)	(0)	—
小 計	514,980,100	(348,592,391)	(90,669,791)	(75,717,918)
合 計	614,980,100	(348,592,391)	(190,669,791)	(75,717,918)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物付属設備	13,683,712	1,634,292	12,049,420
什器備品	7,461,614	6,140,583	1,321,031
合 計	21,145,326	7,774,875	13,370,451

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期増加額	当期減少額	当期末 残高	貸借対照表上 の記載区分
受取地方公共団体補助金						
富山市コンベンション開催事業補助金	富山市	0	3,040,000	3,040,000	0	—
令和4年度富山県学会等開催事業費補助金	富山県	0	1,520,000	1,520,000	0	—
令和4年度石川県コンベンション誘致推進事業補助金	石川県	0	233,000	233,000	0	—
福島県コンベンション・エクスカーショント補助金	福島県	0	560,000	560,000	0	—
小計		0	5,353,000	5,353,000	0	
受取民間補助金						
講演会補助金	(公財) 高松コンベンションビューロー	0	83,000	83,000	0	—
講習会補助金	(株) フォーアシスト	0	100,000	100,000	0	—
小計		0	183,000	183,000	0	
受取地方公共団体助成金						
講演会開催助成金	金沢市	0	150,000	150,000	0	—
小計		0	150,000	150,000	0	
受取民間助成金						
日本機械学会島山賞助成金	(公財) 荏原島山記念文化財団	0	2,000,000	2,000,000	0	—
ハイブリッドコンベンション助成金	(公財) 札幌国際プラザ	0	1,000,000	1,000,000	0	—
研究成果普及助成金	(公財) スズキ財団	0	400,000	400,000	0	—
ハイブリッド国際会議実証事業助成金	(株) 日本旅行	0	995,000	995,000	0	—
高度生産システムに係る国際会議助成金	(公財) マザック財団	0	300,000	300,000	0	—
令和4年度国内会議開催助成金	(公財) 名古屋観光コンベンションビューロー	0	200,000	200,000	0	—
学会等開催助成金	(公財) 大幸財団	0	200,000	200,000	0	—
国際会議開催助成金	(公財) 中部電気利用基礎研究振興財団	0	200,000	200,000	0	—
2021年度国際会議開催助成金	(公財) 立石科学技術新興財団	0	1,000,000	1,000,000	0	—
講演会開催助成金	華為技術日本(株)	0	3,000,000	3,000,000	0	—
国際会議開催助成金	(公財) 天田財団	0	1,500,000	1,500,000	0	—
講演会開催助成金	(株) セミコンダクタポータル	0	794,725	794,725	0	—
令和4年度大規模MICE開催費助成金	(公社) 青森県観光国際交流機構	0	1,000,000	1,000,000	0	—
MICEハイブリッド開催支援・安全対策支援助成金	(公財) 福岡観光コンベンションビューロー	0	700,000	700,000	0	—
講演会開催助成金	(公財) 三五ものづくり基金	0	200,000	200,000	0	—
研究成果普及助成金	(公財) スズキ財団	0	400,000	400,000	0	—
講演会開催助成金	神奈川大学	0	50,000	50,000	0	—
国際学術研究助成金	(一財) 青葉工学振興会	0	30,000	30,000	0	—
小計		0	13,969,725	13,969,725	0	
合計		0	19,655,725	19,655,725	0	

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
事業実施のための振替額	4,640,271
合 計	4,640,271

7. その他

(貸借対照表関係)

- (1) 当期より勘定科目を次のとおり変更している。
 「製品」→「出版物」
 「基本財産（現預金）」→「定期預金」
 「機械工学振興事業資金」「日本機械学会賞基金」→「寄付金」「投資有価証券受贈額」
- (2) 「備品」に含めていた「建物付属設備」と「什器備品」を、当期より独立の科目として表示している。
- (3) 「その他流動負債」に含めていた「未払法人税等」と「未払消費税等」を、当期より独立の科目として表示している。
- (4) 前期まで、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識し、差入保証金の減額処理を行っていたが、当期より当該処理を省略している。

(正味財産増減計算書関係)

- (1) 当期より勘定科目を次のとおり変更している。
 「書籍等収益」→「書籍等販売収益」
 「仕損」→「出版物処分損」
- (2) 「その他事業収益」に含めていた「掲載料収益」「展示広告料収益」「資格試験事業収益」を、当期より独立の科目として表示している。
- (3) 「受取負担金」に含めていた「受取受託事業収益」「受取地方公共団体補助金」「受取民間補助金」「受取地方公共団体助成金」「受取民間助成金」を、当期より独立の科目として表示している。
- (4) 「給与手当」に含めていた「賞与引当金繰入額」を、当期より独立の科目として表示している。
- (5) 「外注費」に含めていた「人材派遣費」を、当期より独立の科目として表示している。

附 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表の注記に記載している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	11,344,356	11,047,750	11,344,356	0	11,047,750
退職給付引当金	83,084,705	11,345,249	18,712,036	0	75,717,918
貸倒引当金	270,000	0	0	270,000	0

(注) 貸倒引当金の「当期減少額（その他）」は洗替額である。

2. 独立監査人による監査報告書

独立監査人の監査報告書

2023年3月28日

一般社団法人 日本機械学会
会長 加藤 千幸 殿

清泉監査法人
東京都中央区
指定社員 公認会計士 辺土名 厚
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条第2項第1号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人日本機械学会の2022年3月1日から2023年2月28日までの2022年度の貸借対照表、正味財産増減計算書及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び正味財産増減の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

その他の事項

一般社団法人日本機械学会の 2022 年 2 月 28 日をもって終了した前事業年度の財務諸表等は、前任監査人によって監査されている。

前任監査人は、当該財務諸表等に対して 2022 年 3 月 25 日付で無限定適正意見を表明している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、ま

た、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

3. 公益目的支出計画実施報告書

【別紙2：公益目的支出計画実施報告書】

2. 公益目的支出計画実施報告書

【令和4年度（令和4年3月1日から令和5年2月28日まで）の概要】

1. 公益目的財産額	1,364,191,967円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額（(1) + (2) - (3)）	935,594,699円
（1）前事業年度末日の公益目的収支差額	898,473,761円
（2）当該事業年度の公益目的支出の額	104,861,467円
（3）当該事業年度の実施事業収入の額	67,740,529円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	428,597,268円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 注	
<ul style="list-style-type: none"> ・機械の日・機械週間では、早稲田大学において「機械工学の将来」等をテーマに記念講演や、「夢の機械、未来の機械」絵画コンテストを実施した。また、機械遺産の認定事業では今年度3件を認定表彰し、選考理由等に関する動画配信を行った。 ・2022年度年次大会は研究発表860題、特別講演2件、基調講演17件、ワークショップ13テーマ等で富山大学において開催し、参加者1,857名により活発な議論が繰り広げられた。 ・機械工学振興事業資金助成事業として、38件を開催し、9,760名の参加があった。 ・国際連携では、タイ（TSME）主催の年次大会や、米国（ASME）・中国（CNS）との共催のオンライン国際会議に対し、会長及び国際連携委員会関係者等が参加した。 ・電子版定期刊行物として日本機械学会学術誌を、国際的にも存在感を有する刊行物として発行している。 ・経費の圧縮等により公益目的収支差額の累積が計画を下回ったが、上記のとおり一般市民・児童等へ向けた機械工学への理解と啓発活動を継続的に行っており、影響を注視しながら、今後計画変更を行う。 	

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の完了予定事業年度の末日	(1) 計画上の完了見込み	令和10年2月29日
	(2) (1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産	1,364,191,967円	1,364,191,967円	1,364,191,967円	1,364,191,967円	1,364,191,967円
公益目的収支差額	912,230,000円	898,473,761円	995,160,000円	935,594,699円	1,078,090,000円
公益目的支出の額	161,098,000円	109,789,869円	161,098,000円	104,861,467円	161,098,000円
実施事業収入の額	78,168,000円	61,545,213円	78,168,000円	67,740,529円	78,168,000円
公益目的財産残額	451,961,967円	465,718,206円	369,031,967円	428,597,268円	286,101,967円

4. 監事による監査報告書

4・1 監査報告書

2023年3月28日

監査報告

一般社団法人日本機械学会

監事 飴 雅英

監事 井原 郁夫

第100期(2022年度)事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、公益目的支出計画実施事業報告書その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、監事飴雅英と監事井原郁夫は、本会の運営について調査を行い、その結果を監事間で協議して、監査を実施いたしました。

具体的には、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について定期的に報告を受け、また、随時説明を求めました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。

(2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当です。

(4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

(5) 公益目的支出計画実施報告書は法令及び定款に従い、当法人の公益目的支出計画の実施状況を正しく表示しています。

以上

附属明細書（事業報告関係）

会社役員以外の会社業務執行取締役等との兼務状況の明細

2022 年度事業報告書 1 ページに記載のとおり

附属明細書（計算書類関係）

財務諸表の注記に記載している